

しゃきしゃきキャベツとイカの酢づけ



岩戸芳江さん(親野井)

①キャベツは一口大に切り、ニンジンも千切りにして塩を振り、30分から40分ほど重しを載せて漬ける②イカはワタを取り皮をむいたら身と足を茹でる③①の水気を手で絞って切り、紅しょうがを混ぜる④③とイカの足をイカの中に詰め、ようじでとめる⑤プラスチック容器にすし酢と紅しょうが汁をあわせ、④を入れたら冷蔵庫で6時間ほど漬けて出来上がり

※紅しょうがの量はお好みで。キャベツのしゃきしゃき感と酢のさっぱり感がこれからの季節にピッタリです

《材料》4人分:イカ3杯、キャベツ1/3個、ニンジン1/2個、紅しょうが1/2袋、塩小さじ3/4、ダシ入りすし酢大さじ6



なつかしの写真館

再開2年目の「野田のつく舞」

写真提供=矢部節子さん(野田)

「野田のつく舞」は、毎年7月に行われる野田三ヶ町夏祭りの中日に演じられる民俗行事で、国選択、県指定無形民俗文化財です。写真は、昭和13年を最後に途絶えていたつく舞が再開されて2年目となる、昭和30年7月に撮影されたものです。「ジュウジロウサン」と呼ばれる白装束に雨蛙の面を被った演者が、柱を登っていくところ

が写っています。高さ15メートルほどの白木綿で巻かれた柱を立てて、「ジュウジロウサン」が頂上の樽の上から矢を放ち、柱から張った綱の上などで、妙技を演じるもので、雨乞いの意味があると伝えられています。※古い写真を募集しています。秘書広報課広報広聴係までご連絡ください。採用された方には、図書カードを進呈します。



ボランティア連絡協議会訪問(4) カンボジアに学校を贈る会野田支部



平成18年には図書館も寄贈

カンボジアは、長く続いた内戦などで教育制度が崩壊し、学校もなく教師もいないという状態になっていました。そこで、カンボジアの全ての

子どもたちに教育の機会をとの思いから、平成7年に「カンボジアに学校を贈る会野田支部」が発足しました。本部は柏市にあります。「野田市民の力で学校を贈りたい」と考え、バザーやチャリティコンサート、写真展などを開いて地道に募金活動を続け、12年に小学校を建設。300人ほどの子どもたちが、3部制で授業を受けています。◆小学校2校と図書館1館に2年後の14年には2校目の小学校を、さらに18年には同校の敷地内に図書館を建てました。

同校には、100人ほどの子どもたちが通っています。◆カンボジアに明るい未来を同会では、筆記用具や遊具なども贈り、子どもたちの学習を側面から支援しています。現在、1棟(2教室)建てるのに500万円ほどの資金が必要です。同会では、「タオル1本、石けん1個の協力を」を合言葉に、カンボジアの明るい未来の創造に向けて協力を呼びかけています。【問合せ】カンボジアに学校を贈る会野田支部・小川 ☎712319254



管理栄養士の指導を受けながら

慣れない手つきで 男の料理に挑戦

食育の日になみ、男性にも料理に興味を持ってもらうと食育講座を6月19日に保健センターで開催した。15人が参加し、管理栄養士の食事のバランスや目安量の講話を聞いたあと、調理実習を開始。慣れない手つきながら「野菜の肉巻き」や「きゅうりの酢味噌和え」などに挑戦。最後はきれいに盛り付け、満足気に味わっていた。